

教務だより

2015年3月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

サクサク準備は春にあり～英語も数学も国語も大切～ 茗溪塾塾長 宇野 雅春

授業中によく子どもたちから、こんなことが人生に必要なのかと問われます。たとえば、「因数分解なんて、生きていくのに必要ないじゃないか」ということです。

こんな質問は、今にはじまったことではなく、過去にも塾で子どもたちを教えるごとに何度となく繰り返し質問されてきました。今までは、「生きていくうえでの考える力をつけるために必要」とか、「より生活を豊かにするために必要」とかそんな答え方をしていたと思います。

「食べて寝るだけではブタと一緒にだ！（ブタさんごめん）」みたいなことです。

しかし、この数年、私の考えは大きく変わってきました。教え子たちが次々と成人し、就職し、自立していくという局面をいく度か繰り返しているうちに、「英語」の必要性と、数学の必要性が決して「受験」のためだけではないことに気づいたのです。

英語が話せたら楽しいだろうなあとか、格好いいとかではなく、仕事をしていく上で、英語が必要になるものが、非常に多いのです。逆に言えば、「英語」ができなければ、やれない仕事が多くなっているといえるかもしれません。「国際化社会」は、急速に現実化してきていますし、私の身近でも英検一級を持っている先生が多くなり、子どもたちのなかでも帰国子女を中心に英語の能力は、飛躍的にアップしてきています。

塾での英語教育もネイティブな音を聴くことが前面に出てきていますし、言語として習得するための「小学生英語」も、こうした「時代背景」に押されるようになってきたといえるかもしれません。

また、インターネットをあやつるにも、思わぬところで英語の力が必要になることがよくあります、というより用語は英語だらけです。ここで考えなければいけないのが、コンピュータの普及です。数学の基本的な概念抜きに、コンピュータの本質的な理解は不可能です。コンピュータでの処理を自分でできる能力は、たぶん生活上・仕事上で必要不可欠になると思われます。そのとき、ある程度の基礎知識を習得するために「数学」は避けて通れません。時代が進めば進むほど、「数学」の必要は大きくなってくると思います。

塾では「英検」を中心に、予備校とも協力して、英語教育のより理想的なスタイルを絶えず研究せざるを得ない状況にきています。そして「数学」も、より思考力を発展させる方向が開発されていかなければならず、特に高校での数学の重要さは、さらに増すと思います。

そして、これら英語や数学を理解するための根本は「国語」力です。国語をベースとした読解力がなければ、どんな学問も正確な理解には到達しえないはずです。

文化が進み、社会が進んでいく、この今の時点で、これらの教科の学習が、「受験」のためであり、合格するという短期的な目標達成のためだけでなく、将来「生きていく」ために必要になってきていることに、早く子どもたちが気がついてほしいと思うのです。

(塾長著書「合格への道しるべ」より)